

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101323		
法人名	社会福祉法人 日浦会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム レーブそとめ	ユニット名	
所在地	〒851-2324 長崎県長崎市上黒崎町2199-14		
自己評価作成日	平成26年2月1日	評価結果市町村受理日	平成26年3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-3-1 博多いわいビル2F		
訪問調査日	平成26年2月20日	評価確定日	平成26年3月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

オゾンに包まれた山頂より、海が望める自然環境が自慢です。野兔やキジバトなどの小動物も見られます。庭先には花畑や野菜畑があり、芋掘りをしたり、草花を鑑賞したりして入居者の楽しみの一つになっています。またホーム内ではシーズ犬(名前はサンボ)や金魚を飼っていて、入居者の癒しになっています。そういう環境の中で入居者の方に安心に生活して頂いております。暖かい日には外で外気浴を兼ねてのレクリエーションを行ったり、老健施設や隣の式番館等を散歩したりしております。鬼火焼きや夕涼み会、花見等の屋外での行事も入居者の楽しみとなっております。またホームで誕生月の人を皆でお祝いしてアットホームな雰囲気も作っています。

25年度は入居者の入退居が多く、管理者や介護支援専門員を中心に全職員が結束し、入居者全員の寄り添いと個別ケアを続けてこられた。入居前に行動障害が見られていた方も、入居後は穏やかになられ、他の方と体操をしたり、ホーム内の歩行訓練も日課となっている。雑巾縫いや洗濯物干し、ハギレ切り、米研ぎ、下ごしらえ等、入居者の方にできる作業を増やし、生き生きとされている姿が見られている。地域のふれあい祭りへの作品作りも頑張られ、入居者の状況に応じて、牛乳パックで作られた椅子や貼り絵等の3種類の作品が作られた。公民館での展示が行われ、2名の入居者が見学に行く事ができた。学童の子ども達との交流も継続し、一緒にカレー作りなどを楽しまれている。食べる事が大好きな方も多く、今後も入居者の方々と一緒に食事作りを楽しまれていく予定である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を共有し、ホームの方針として「入居者と職員のふれあいの時間を作る」をH19年度より到達目標として入居者の方が満足して頂けるよう実践に努めている。	理念の2つ目に”常に施設をご利用される皆様の満足度の向上を目指す”を掲げており、入居者のお好きな事や得意な事を把握し、日々の役割等を担って頂いている。副施設長の配慮もあり、職員の意見や要望を運営に反映して下さっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	H21年4月より自治会に加入し、地域行事に参加しているが、特定の入居者の方しか参加できない状況である。またホーム発行のたよりを配布している。黒崎地区学童クラブ「夕焼けキッズ」や黒崎東小学校の慰問で入居者との交流があった。	25年度は、三重・外海商工会の方が温泉のお湯を3施設に運んで下さり、入居者も喜ばれた。また、25年度の法人の夏祭りには地域の方が300人以上来て下さり、式番館のホームの職員とも協力し、ヨ-ヨ-の準備と販売等が行われた。ふるさと祭りの作品の出品も継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今のところ行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族会の立ち上げが難しいので、まずは全家族に運営推進会議の議事録を郵送あるいは手渡して運営推進会議というものを理解してもらっている。	25年度は家族代表を2名にし、参加しやすい会議にしている。地域の方から公民館情報(エレベーター設置)を頂き、公民館で行われる“ふるさと祭り”に2人の入居者が参加する事ができた。地域情報を頂く中で、少しでも地域交流ができるように努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	長崎市琴海行政センターや包括支援センターの担当者には月1回「レープだより」を郵送したり、運営推進会議の案内や議事録を郵送している。また包括支援センター主催の外海地区ネットワーク会議に出席している。	25年度の実地指導の内容や対策も運営推進会議で報告している。運営推進会議の中で、地域包括の管理者から消防団との訓練のアドバイスを頂き、副施設長が消防団との調整をしている。外海地区ネットワーク会議では、自治会長や民生委員との情報交換を続けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	昼間は常に玄関、窓はオープンになっており自由に出入りしている。出て行こうとする人に対しては玄関ドアにつけている鈴や他の入居者に呼んで頂き、職員が対応している。また、エスポアールの職員にも協力してもらって電話連絡で対応している。	入居前に行動障害が見られていた方も、入居後は穏やかに過ごされている。行動障害の原因に目を向けており、ご本人のお気持ちに応じて、職員と散歩をしたり、日々の役割を担って頂いている。転倒のリスク等も考慮し、ホーム独自の転倒防止マニュアルも作られている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人グループの研修会や外部研修で高齢者虐待防止関連法を学び、事業所内での虐待がないよう職員どうし注意しあっている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今のところ行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者の病状悪化や異常行動の時は緊急に家族に連絡し、十分に説明し家族の理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者からは要望を職員が聞いたり、家族からは面会や電話で相談にのったりしている。また御意見箱を設置し、職員に対する不満は法人内老健施設の支援相談員が受け付けている。	面会時に家族とお話する機会を作り、ホーム便りにも写真を載せて日頃の状況を報告している。25年度は新しく入居された方も多く、“入院した時の不安”等にも向き合い、今後の生活場所の話し合いも行っている。家族の要望もあり、25年4月からホームで誕生日会を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のレーブ会議や日々の申し送りで職員の意見を集約し、月2回の主任会議で報告している。	長く勤務している職員が多く、“あうんの呼吸”になっており、“気がついたらその場で言おう(後からでは忘れるので・・・)”という環境もできている。レーブ会議の議論内容も明確に記録に残し、職員のアイデアや要望も日々の運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	同グループ内の病院で日勤者は年に1回、夜勤者は年2回の健康診断を実施し、職員の心身の健康を保つための対応をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、業務に差しつかないように法人内外の研修を勧め、研修を受ける機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設の見学は行っているが、ネットワーク作りは行っていない。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居されてから詳しい話を聞いて本人の安心を確保するため自宅でなじみの物を居室に置いたり使用して頂いたりして安心して生活できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や電話で気軽に相談できる体制を取っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内老健施設の支援相談員が窓口になり対応している。また支援相談員と同行して家庭を訪問し本人や家族と面談し、必要としている支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者の手助けを行いながら入居者の意向を第一に考え、話し合いながら築いている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	同グループ内の病院以外の受診や困ったことがあれば一緒に対応策を考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会に来て頂ける雰囲気を作っている。隣のレーブ式番館や老健施設におられる親や兄弟に面会に行ったり来てもらったりしている。	面会時に目印になる場所や道順を教えたり、車の無い方は日浦病院までお迎えに行っている。お弁当持参で来て下さる方もおられ、お部屋でゆっくり過ごされている。病院の待合室で馴染みの方と会話が盛り上がる方もおられ、神父様も来て下さっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事での余興参加、ホーム内での共同作業などを通じて交流を深めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中は家族・病院と連絡を取り、安心して頂けるようにしている。希望のある方は戻って頂けるよう窓口である法人内の老健施設の支援相談員と連絡を取り合っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の希望に応じ、生活して頂けるよう買物・リハビリを実施している。困難な場合は表情を汲み取り話を聞いたり、一緒に散歩に出掛けたりしている。	生活歴や生活習慣、趣味等を把握しながら、“ご本人を知る”事を大切にしている。団欒の時などに楽しい時代の事を話して下さる方も多いが、入浴時に“原爆”の辛さを語って下さる方もおられる。食べる事が大好きな方が多く、食べ物の意向を伺い、食事や外出などに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人の生活歴を考慮して活躍場面を提供している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月のレーブ会議・申し送りで職員全体が把握しており、個々にできるところにその力を発揮している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各職員がそれぞれ1~2名の入居者を担当し、日々の過程について責任を持って介護計画に盛り込み、月1回のレーブ会議で職員全員で確認し合っている。またモニタリングを実施し職員全員で評価している。	ご本人と家族の意向を伺い、“畑仕事”“下ごしらえ”などの役割や楽しみが盛り込まれている。母体施設のPT・OT・STからリハビリのアドバイスも頂き、折り紙でハラを作り、子ども達との合作作品も作られている。今後も、生活歴や、3表(日課表)の記録を充実させていく予定にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録、申し送りノートに記載し見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買物やドライブを必要に応じて行っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地元の自治会長や民生委員、警察の方にも参加して頂き、長崎市琴海行政センターまたは地域包括支援センターの職員の同席のもとで周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回の回診や定期受診の介助をし、家族には文書にて受診状況を説明している。また距離の離れた医療機関には家族同伴で受診をお願いしている。その際必要な書類は家族に持たせている。	回診時に入居者の健康状態の相談ができています。25年秋から、夜間の体調変化等の相談は日浦病院の看護師に連絡するようになり、24時間体制で医療連携が図られている。遠方の病院は家族が受診支援して下さり、受診結果の情報共有もできています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1日3回バイタルチェックを行い、異常がある時は日浦病院の外来の看護師に相談している。また老健の看護師にも入居者の身体で気づいた点を相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と情報を交換し、法人内の支援相談員が窓口となり、そうした場合に備え連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日浦グループ内の病院、老健施設で対応できるようになっている。	ホームで看取りケアを行う方針はなく、入居時に重度化や急変時の対応について説明している。状態が変化した場合は職員も病院に同行し、入院や入所等の検討をご本人や家族と行っている。日浦グループの病院や老健施設で対応できるように体制を整えている。重度化しないように、リハビリや体操を取り入れている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時は協力病院の日浦病院へ連絡して指示を受けたり、同法人の老健施設の看護に連絡し相談できるようになっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	同グループ内で災害時の連絡体制を作り、協力体制を築いている。また、その他の災害に備えてマニュアルに基づいて避難経路を確保している。	スプリンクラーを設置し、25年度は火災通報装置も設置された。25年6月には、式番館との合同訓練が行われ、消防署の方も参加して下さった。25年9月からは毎月の訓練も行われている。井戸水は停電時も自家発電で利用でき、日常の食材は母体施設と共同購入している。	

自己	外部	外部評価		
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症に係る研修等で職員の技術の向上に努めている。居室に入る時は合図して声掛けを行うと共に個々の物を触る時は了解を得るようにしている。	トイレ誘導時は必ずカーテンやドアを閉め、他の方に聞こえないように声かけしている。希望に応じて同姓介助をしており、言葉遣いにも配慮し、ご本人の好まれる話題を盛り込むようにしている。個人情報利用に関する同意も家族から頂いている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員がゆっくりと傾聴する場面を作り、思いや希望を伝えて頂き、個人に合わせた対応を行っている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望を重視し無理強いすることなく入浴、外出、買物、作業等一人ひとりに合わせて行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は本人に選んで頂き、髪をカットしたり、髭を剃るのを手伝っている。また家族の方が面会の際お化粧をして頂いている。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人内の管理栄養士が献立を作り食材が届くようになっている。可能な限り入居者と職員が準備や後片付けを一緒に行っている。	ホームの菜園では季節に応じた野菜が作られ、入居者と一緒に収穫している。土付きのさつま芋を洗って下さり、蒸し芋を美味しく食べられたり、米とぎや、ツワや里芋、芋づるの皮むきをして下さる。職員も一緒に食事を楽しんでいる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士が1日のカロリー計算をした献立を作っている。自分で水分摂取可能な人にはペットボトルにお白湯やお茶を入れて渡している。介助が必要な人には職員が随時水分補給をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがいや歯磨きをして頂いたり、週2回薬剤を利用して入れ歯を洗浄している。自分でできない人は職員が介助している。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターン、習慣を活かしてトイレ誘導を行っている。夜間はポータブルトイレや尿器を使用してもらっている。	自立している方も多く、布の下着の方もおられる。尿器を使用している方は、タイマーに片付けを行い、居室に尿臭が残らないように努めている。入居者のサインやタイミングを見逃さないように努め、個別のトイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のテレビ体操と廊下での歩行訓練や水分補給の徹底を行い、主治医の診断のうえ便秘薬を投与している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一日おきに入浴して頂き、具合の悪い時や気分のすぐれない時は次の日に入浴して頂いている。季節ごとに菖蒲湯や柚子湯で季節感を感じてもらったり、入浴剤の使用で香りや保温・保湿効果も楽しみの一つにしている。11月末に嬉野温泉の湯に入浴し、気持ちよかったと評判を得た。	お風呂好きな方が多い。浴槽の出入りが困難な方はボードに座って頂き、職員が介助する事で安心して入浴して頂いている。湯船に浸かり、職員との会話を楽しまれたり、歌を唄われており、洗える所は、ご自分で洗って頂いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室に湿温度計を設置し、温度の調整や寝具の手入れを行い、安心して休息したり眠れるような工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋を入居者の個人ファイルに綴じ、職員が内容を把握できるようにしている。服薬時は本人に手渡したり服薬介助をしたりして、きちんと服用できているかの確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物をたたむ人、おしぼりを作る人、食材の切込みができる人等一人ひとりの力を活かして役割を持ち、楽しみながら生活している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	法人内で行われる行事に参加したり買物、散歩、ドライブに出かけている。また家族の方に連絡し、外出届けを提出したのち、本人の希望地に出かけられるよう支援している。	弐番館と一緒に使える車が購入され、25年4月には入居者全員を連れて、三重の港公園で海を眺めたり、“がんばラントのスーパー”等で買い物を楽しんでいる。愛犬のカットに連れて行く時に、一緒にドライブする機会も作られている。ホーム周辺を散歩しながら、お花を摘んでリビングや居室に飾られている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	多少の現金を持って頂いており週1回の移動パン屋から好きなパンを購入したり、必要に応じて買い物に出かけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の子機を利用し、いつでも利用して頂いている。必要に応じて手紙の代筆も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾り明るい空間を作っている。廊下やホールの壁には共同作品や写真等を飾って楽しんで見てもらえるようにしている。	金魚の水槽を2つに増やし、家族から褒めて頂いた。海を眺めながらリビングで過ごされる方が多く、一緒に料理をしたり、愛犬を可愛がる姿も日常に見られている。職員と一緒に雑巾縫いや作品作りをされたり、ソファでテレビを見ながら、入居者同士の会話を楽しまれている。母体施設までのフェンスも検討されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気に入った場所で過ごして頂けるよう食卓・ソファを設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分で使用していた物を置いて頂き、家族の宿泊の希望があれば布団や食事の提要进行をしている。	行事の写真や家族が撮影した写真が飾られている。大切な仏壇やマリア様の写真も持ち込まれ、毎月、リビングで神父様がお祈りをして下さっている。居室のソファに座り、新聞折り等の作業をして下さり、天井の電気に取り付けた紐の置き場所も、ご本人が使いやすいように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを設置しバリアフリーにしている。またベッドより転倒の恐れのある人にはPバーを設置している。		